

佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2024年1月 - 第20号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:グresham市について 第2章

あけましておめでとうございます！今年もよろしくお祈りします！

昨年11月30日から12月10日まで、中学生国際交流事業の引率者として、姉妹都市である米国オレゴン州グresham市に行きました。グresham市は、私の故郷であるシアトル市から車で3時間程かかりますが、今まで行ったことがありませんでした。生徒たちも私も様々な経験をしてきましたので、ご紹介します。話が長くなるので、今月は、5日間を日記にします。続きは来月です。お楽しみに！

1日目 11月30日(木)

朝8時頃に家を出て、バスで直接新千歳空港に行きました。娘と離れた時、私も娘も泣きませんでした。娘は5歳なのに、とても強いと感じました。

空港で訪問団の生徒6人と先生1人と合流しました。生徒たちはこれからの旅について話している時、とてもワクワクしていました。羽田空港に着いたら、日本での最後のご飯を食べました。お蕎麦でした。



羽田からロサンゼルスまでの飛行機は約9時間でした。飛行機の中で寝れなかったため、ずっと映画を見ていました。

11月30日に出発しましたが、ロサンゼルスに着いたのは、また11月30日でした。タイムトラベルのようでした。ポートランド行きの飛行機を待っている間、少し買い物をしたり、懐かしいおやつを食べたりしました。生徒たちは疲れていたため、搭乗口の前で寝ていました。



4時間後に、ようやくポートランド行きの飛行機に乗ることができました。2時間半位で、アメリカの国内便としては割と早かったです。

ポートランド空港に到着すると、黄色いスクールバスが私たちを待っていました。運転手のスティーブンさんはとてもフレンドリーで、昔江別市からの中学生を受け入れたことがあると話していました。

午後6時過ぎでしたので、暗くなっていましたが、生徒たちはスクールバスの窓からの眺めを楽しんでいました。特にクリスマスのイルミネーションに感動していました。アメリカでは、多くの人がクリスマスのために自宅をイルミネーションします。



グレシャム市内のホテルにチェックインしてから、近くにあるハンバーガー屋さんに行きました。バーガーヴィルという店で、ポートランド市周辺にしかありません。私は初めて食べましたが、ファーストフードのハンバーガーなのに、新鮮な野菜がいっぱい入っていて、とても美味しかったです。そのハンバーガーを思い出すとよだれが出てきそうです。



夕食後にホテルに戻り、女子生徒5人とプールで遊びました。生徒たちははしゃいでいたので、サンタさんに見えるホテルのお客さんに注意されました。

部屋に戻り、大きなお風呂に入り、私が子どもの時に人気のあった「フレンズ」や「となりのサインフェルド」というテレビドラマを見ていました。子どもの時にこのチャンネルは「アイ・ラブ・ルーシー」や「ハッピーデイズ」という50年代から70年代までのテレビ番組を再放送していましたが、今は90年代のドラマを再放送しています。このことは、私が年を取ったということを実感させられました。

2日目 12月1日(金)

朝は少しゆっくりしてから、皆でグレシャム市内にある「鶴アイランド」という日本庭園に見学に行きました。園長のジム・カードさんとボランティアのメアリー・アン・バックさんが案内してくれました。ジムさんは日本庭園に熱心で、鶴アイランドの魅力を丁寧に説明してくれました。鶴アイランドにある植物は全

部日本と同じ種類だそうです。しかも、江別プラザという広場があり、素敵な鶴の像がグレシャム市民を迎えています。当時の両市長が植えた木を含め、何本かの桜の木が春になるときれいに咲き、花見の人気スポットらしいです。江別プラザの前にある共同センターという施設で日本文化や園芸についての講座を開催しています。アメリカにありますが、鶴アイランドで日本を感じました。



鶴アイランドの見学が終わって、ジムさんとメアリー・アンさんからプレゼントをもらいました。特にもらって嬉しかったのは、メアリー・アンさんの手作りチョコチップクッキーでした。ジムさんは一緒にグレシャムのダウンタウンまで案内し、グレシャム市の有名な「シュガー・キューブ」というカップケーキ屋さんでごちそうしてくれました。「好きな物を自由にどうぞ」と言ってくれました。クリスマス季節だったので、私はジンジャーブレッド味のカップケーキにしました。上にかわいいジンジャーブレッドクッキーが乗っていました。お持ち帰りにして、ホテルに戻った後に食べましたが、写真を撮る前に食べてしまったので、許してください。



話は戻りますが、ジムさんと別れた後に、ランチにピザを食べに行きました。「ウォール・ストリート・ピザ」というニューヨーク風のピザで、コストコで売っているような巨大なピザでした。美味しかったです。ゲームセンターのような部屋もあり、生徒たちは食べ終わった後にそこで遊びました。

昼食後にグレシャム市の商工会議所に寄りました。昨年10月に江別を訪問したステイシー・ブルームさんがそこで働いていて、私たちを歓迎してくれまし

た。ステイシーさんは生徒たちにグレシャム市のパンフレットを配り、同じビルの旅行会社のオーナーを紹介してくれました。そのオーナーは姉妹都市提携の記念訪問団の一員として、江別市を訪問したことがあると語りました。前日のバスの運転手の話も思い出し、グレシャム市の人々は江別市と色々な繋がりがあると感じました。



商工会議所にスクールバスがまた迎えに来て、ディープクリーク・ダマスカス K-8 スクールまで送り届けてくれました。やっとホストファミリーと対面する時間が来ました。校長先生のキム・バーカーさんとそれぞれのホストチューデントが学校の正門で待っていました。まず、学校の見学に行きました。K-8 スクールというのは、幼稚園から中学校までの学校という意味で、少し珍しいそうです。「この辺は子どもが多くないので、小学校と中学校が合併した」とキム校長先生が説明してくれました。420人の生徒がいて、大きい学校ではないのですが、グレシャム市の生徒たちが笑顔で挨拶してくれたので、江別市の生徒にとって素晴らしい環境だと思いました。



生徒たちはホストファミリーの家に一度帰り、少し休んだ後、「オールド・スパゲティ・ファクトリー」というファミレスに行き、ホストファミリーとの歓迎交流会が開催されました。そのレストランは、シアトル市にも店舗があり、子どもの時は特別な日に行ったので、懐かしく思いました。店名のとおり「スパゲティ」が有名な店ですが、敢えて日本で本格的なものが食べられないラザニアにしました。生徒たちはたくさ

ん食べて、たくさん英語でしゃべって、とても愉快地に過ごしました。ホストファミリーとの週末はきっと楽しいものになると思いました。



3日目 12月2日(土)

生徒たちは週末をホストファミリーと過ごしていたので、私はポートランド市に行きました。12月8日に生徒たちとポートランド市の研修旅行を予定していたので、その下見をすることにしました。しかし、私はポートランド市に行ったことがなかったので、一人では不安でした。幸いなことに、ポートランド市に友達が住んでいます。友達のフィリーシャは、ポートランド市で生まれ育ち、私と同じように、札幌市で英語を教えていました。札幌で知り合って友達になりましたが、フィリーシャは数年前にポートランド市に戻りました。

午前中に路面電車でポートランド市に向かいました。グレシャム市からポートランド市までは路面電車で約45分かかりました。路面電車の中で、人が大きな声で会話したり、電話で話したり、ヘッドフォンなしでビデオを見たりして、「日本とは違う」と改めて感じました。

オレゴン州日系アメリカ人の博物館の前でフィリーシャと待ち合わせしました。オールドタウンという地区にあり、最近その辺は治安が悪いとオンラインで読みました。やはりホームレスの人々があちこちの歩道にテントを張っていましたが、私たちに全く迷惑を掛けませんでした。ポートランド市の家賃が高くなっているの、払うことができずにホームレスになった人々が増えたらしいです。

博物館は生徒たちと一緒に入る予定でしたので、今回はギフトショップだけでした。次は、フィリーシャが面白いお土産が買える場所や美味しいキッチンカーがある場所を案内してくれました。ポートランド市内には600軒以上のキッチンカーがあり、まだま

だ増えているそうです。キッチンカーが何台か集まっている場所は「ポッド」と言います。「複数のキッチンカーから好きな食べ物を選ぶことができ、生徒たちが喜ぶよ」とフィリーシャがおすすめしました。



私たちは「ポッド」ではなく、ベトナム料理の店に昼ごはんを食べに行きました。70年代にベトナム戦争が終わった後から、アメリカの西海岸に大勢のベトナム人難民が住むようになりました。そのため、ベトナム料理屋さんがたくさんあります。ベトナム料理と言えば「フォー」ですね。ちなみに、「フォー」はベトナム語で phở というスペルですが、発音は「フォー」ではなく、「ファ」に近いです。ベトナム料理がない場所から来たアメリカ人も間違っ「フォー」と発音する人が多いですが、シアトル市やポートランド市などの西海岸にある都会に住んでいる人々は「ファ」と言っています。

フィリーシャと久々に会ったので、ランチタイムは長い時間喋りました。喋るのに夢中になりすぎて、閉店時間を越えたことに気づきませんでした。夕方にポートランド市の下見が終わった後、バスでホテルまで帰りました。約1時間かかりましたが、路面電車より、バス停はホテルに近かったのが、便利でした。スーパーでおやつや飲み物を買って、ホテルで待機しました。

4日目 12月3日(日)

日曜日は、私の友達がシアトル市から遊びに来ました。友達は叔子(としこ)という徳島県出身の日本人で、90年代にシアトル市に留学に来た時に知り合いました。今はシアトル市にある病院で看護師として働いています。

叔子は朝に車で出発したので、昼過ぎにホテルに着きました。ホテルの隣のタイ料理屋さんで昼食を食べてから、グレシャム市の隣の町、トラウトデール市にあるアウトレットモールに買い物に行きました。アウトレットモールと言っても、為替レートは\$1=約150円だったので、値段はあまり安くありませんでした。

アメリカのモールで買い物している時にカル

チャーショックを受けたのは、買い物袋のことでした。店員さんに「Do you need a bag?」(袋はいりませんか?)と聞かれました。日本でも聞かれますが、普段は、「有料ですが」のような注意を先に言ってくれますね。アメリカでは、料金のことを一切言わなかったのが、「日本と違って無料」だと勘違いして、「Yes, please.」(はい、お願いします)と答えてしまいました。しかし、友達の叔子は、マイバッグを持っていました。「アメリカでも買い物袋は有料だよ」と教えてくれました。レシートを確認すると、やはり買い物袋は10¢(14円)でした。店員さんが説明してくれないのはずるいと思いました。

日曜日でしたので、午後6時にモールが早めに閉まりました。叔子の車は私が買ったお土産や家族のクリスマスプレゼントでいっぱいでした。「全部スーツケースに入るかな?」と心配していました。ホテルに戻り、昼食で食べきれなかったタイ料理を晩御飯として食べました。アメリカのレストランは量が多いので、食べきれない分を持って帰ってもOKです。

5日目 12月4日(月)

午前7時頃にキム校長先生がホテルに私と一緒に引率をしている松井先生を迎えに来てくれました。スターバックスのドライブスルーに寄ってから、ディープリーク・ダマスカス K-8 スクール(略DCD)に行き、生徒たちが登校するのを待ちました。全員元気そうで、安心しました。

アメリカの学校は、ランチだけではなく、朝ご飯も提供しています。小学生時代、毎日学校で朝ご飯を食べていたので、DCDの朝ご飯を食べてみたかったです。メニューは、ホットケーキとメープルシロップ、ソーセージパティ、シリアルと牛乳、ゆで卵、オレンジジュースでした。子どもの時と同じようなメニューでしたが、ホットケーキは全粒粉でできていました。昔より少し健康的になったような気がしました。

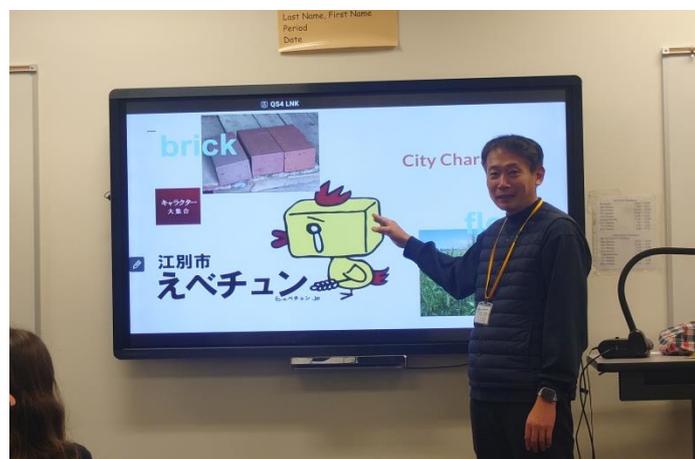


松井先生は日本文化についての授業を用意して

いたので、午前中はその授業の手伝いをしました。2時間目から5時間目まで、4時間の授業を教えました。DCD は一日8時間目まで授業があります。1時間目はホームルームのような時間で、19分しかありませんが、他の授業は45分です。授業と授業の間は3分しかなく、給食と昼休みは30分しかありません。時間が細かくて、かなりハードなスケジュールですね。90年代に通っていた中学校は日本と同じように、6時間目まであり、少し長めの休憩時間と昼休みがありました。ネットで調べてみると、今はDCD に似ているスケジュールになっているらしいです。アメリカは授業を増やし、休憩を減らす傾向なのではないかと思っています。

<u>MS Schedule</u>	<u>Wednesday Schedule</u>
1st- 8:50-9:09	2nd- 9:50-10:31
2nd- 9:12-9:57	3rd- 10:34-11:13
3rd- 10:00-10:45	4th- 11:16-11:55
4th- 10:48-11:33	5th-11:58-12:37
5th- 11:36-12:21	Lunch 12:42-1:12
Lunch 12:26-12:56	6th-1:17-1:56
6th- 1:01-1:45	7th- 1:59-2:38
7th- 1:48-2:33	8th- 2:41-3:20
8th- 2:36-3:20	

松井先生の授業内容は、日本についての〇×クイズ、けん玉体験、鶴の折り紙でした。最初の授業で、私は鶴の折り方が分からなくて、生徒たちと一緒に苦労して折っていましたが、授業を教えれば教えるほど、段々折るのが上手くなりました。DCD の生徒たちは日本文化の授業を楽しめたようでした。



午前中の授業が終わったら、スクールランチ(給食)を食べてみました。この日の選択肢は、チキンバーガーかスパイシーチキンバーガーかサンバター

とジャムのサンドイッチでした。サンバターというのは、ひまわりの種でできたパンに塗る食品です。アメリカの子どもたちに愛されている「PB&J」(ピーナツバターとジャムのサンドイッチ)がありますが、キム校長先生によると、落花生アレルギーの子がたくさんいるので、ピーナツバターの代わりに、サンバターを使っているそうです。

サンバターとジャムサンドイッチではなく、今回はスパイシーチキンバーガーにしました。日本で、「スパイシー」が名前に入っているものは私にとって辛いですが、これは名前のおり辛かったです。辛いものが好きなので美味しく食べられました。日本の給食にこんなに辛いものは出ないと思いました。



給食後、10月に江別を訪問した商工会議所会頭のブライアン・ヨークさんと Chocolat-e というグレシャムの近くにあるグルメチョコレート会社の創業者が DCD に来て、チョコレートの試食会を開催してくれました。創業者はアメリカ人のノームさんとフランス人のジャンイヴさんで、チョコレートを食べる前に、会社を説明してくれました。

Chocolat-e の名前の由来は、フランス語の chocolat に英語の e を付け、ハイフンで繋げ、フランスとアメリカの間の架け橋を表しているらしいです。Chocolat-e は人権や環境を大切にしている会社です。児童労働に反対し、カカオ農家の生活改善に取り組んでいます。しかも、チョコレートの箱は再生紙でできていて、植物由来の包装を使用し、プラスチックの使用を減らしています。パッケージに使われている素材は全てリサイクルできます。

6種類のチョコレートがあり、フレデリック・カッセルさんという銀座に店舗がある程の有名なフランス人のパティシエとショコラティエが考えたレシピに従い、厳選されたカカオ豆で作られています。まず、

ダークチョコレートの4種類は、72%カカオで、全て同じレシピですが、違うのはカカオ豆の生産国だけです。マダガスカル産、ドミニカ共和国産、メキシコ産、エクアドル産のカカオ豆でできたチョコレートはそれぞれ味が違い、食べ物は育てた環境がすごく大事だと実感しました。ミルクチョコレートの2種類は、ベリーズ産とブラジル産のカカオ豆を使用していますが、それぞれ47%と43%カカオです。一般的なミルクチョコレートよりカカオ分が多いので、「ダークミルクチョコレート」と呼ばれています。6種類を食べ比べ、生徒たちの感想を聞き、とても楽しかったです。全種類美味しかったです。私はミルクチョコレート派なので、ブラジル産が一番美味しかったです。



午後の授業を見学し、放課後に、キム校長先生と松井先生と一緒にバスケット部の試合を見に行きました。DCD が負けて、残念でした。

夜ご飯はキム校長先生がトラウトデールステーションというキッチンカーのポッドに連れて行ってくれました。ハンバーガー、手羽先、お寿司、中華料理、ペル料理、インド料理など様々な国の料理がありました。私は中東の料理のファラーフェルにしました。潰したひよこ豆と香辛料でできた丸い揚げ物で、日本のコロケに似ています。ピタパンに挟んでサンドイッチとして食べる人が多いです。日本で食べる機会がほとんどないので、食べてみたいと思いました。美味しかったです。



月曜日になり、学校が始まったばかりでしたが、もう旅の半分程が終わりました。残りは、来月に報告しますので、読んでくださいね。★

キング牧師記念日

キング牧師記念日は、英語で Martin Luther King Jr. Day と呼ばれ、アメリカの祝日です。キン



グ牧師の誕生日は1月15日ですが、キング牧師記念日は、1月の第3月曜日に祝われています。2024年のキング牧師記念日は、15日になり、実際の誕生日です。

キング牧師は、アフリカ系アメリカ人公民権運動のリーダーで、非暴力差別抵抗活動を行いました。彼の「I Have a Dream」(私には夢がある)というスピーチはアメリカの歴史の中で最も有名なスピーチの一つで、日本の英語の教科書にも載っていると聞きました。1968年に暗殺された後、キング牧師の誕生日を祝日にする運動が始まりました。1980年にスティーヴィー・ワンダーが「ハッピー・バースデー」という曲を出したおかげで、国民の多くがキング牧師記念日を支持するようになり、1983年にレーガン大統領が祝日にしました。

しかし、祝日になっても、州によって法律が違い、祝う州と祝わない州がありました。2000年にキング牧師記念日が初めて全国で認められました。南北戦争の時に、アメリカ連合国の大将のロバート・E・リーは誕生日が1月19日なので、未だにいくつかの南部の州で、キング牧師記念日とリー大将記念日が同時に祝われています。

キング牧師記念日は、学校や仕事が休みですが、家でダラダラするだけではなく、ボランティア活動や平和を促進するイベントに参加することが望ましいです。私の学校は毎年発表会を開催し、生徒たちは保護者の前で、キング牧師の教えに関連する発表やパフォーマンスを披露しました。最後に、皆でスティーヴィー・ワンダーの「ハッピー・バースデー」を歌いました。私の学校のかかなり大きな行事で、毎年楽しみにしていました。★

お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel: 011-381-1049 Fax: 011-382-3434